

授業科目名： 聴覚障害教育総論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 喜屋武睦 担当形態： 単独
実務内容 (実務家教員の場合)			
科目	特別支援教育領域に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目（中心領域：聴） ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目（中心領域：聴） 		
「学位授与の方針」との関係			
DP2. 共生社会創造のために、教育、福祉、環境、国際関係、スポーツ身体表現、等の専門的知見を得ることができる（専門知） DP4. 個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけ実践することができる（実践力）			
授業のテーマ及び到達目標			
(1) 聴覚障害の基礎的な生理病理的特徴、聴力検査について理解する。 (2) 聴覚障害児のコミュニケーションについて理解する。 (3) 聴覚障害児の言語発達とその支援について理解する。 (4) 聴覚に障害があると学習上、社会生活上、心理上にどのような影響を及ぼすのかを理解する。 (5) 聴覚障害児の自立活動の指導内容踏まえ、各教科指導内容との関連性を学ぶ。 (6) 乳幼児から成人に至るまで、どのような課題があり、どのような支援が行われていくのか、歴史的背景を踏まえて理解する。			
授業の概要			
聴覚の障害は、日常生活の中で聴覚的情報の入力が制限されていることは、聴者が想像する以上に厳しい状況にあり、多様な障害の中でも誤解されている面が多々ある。さらに、聴覚障害児者が直面する重要な問題の一つに「言語の獲得・発達」がある。授業では、聴覚障害児のコミュニケーションの発達を中心課題として、聴覚障害児教育の変遷、補聴器等の補助機器の発達、乳幼児期の両親支援や青年後期における現状と課題を紹介する。			
授業計画			
第1回：耳のしくみ 第2回：聴覚障害の種類と心理的・生理的・病理的特徴 第3回：聴力検査 第4回：聴覚障害児教育の歴史 第5回：海外における聴覚障害児教育 第6回：様々なコミュニケーション方法 第7回：聴覚障害児の言語獲得・習得 第8回：聴覚障害児への言語指導法（1）理論 第9回：聴覚障害児への言語指導法（2）実践 第10回：聾学校（特別支援学校）における聴覚障害児教育の特徴と課題 第11回：通常の小中学校における聴覚障害児教育の特徴と課題 第12回：様々な学び方の可能性 第13回：障害の早期発見・早期療育と両親支援 第14回：高等教育段階における聴覚障害児 第15回：自立活動の指導内容を踏まえた学習指導案の作成、授業改善の方法 科目修得試験			
スクーリングでの学修			
テキスト			
中野 善達・根本 匡文（2008）『改訂版 聴覚障害教育の基本と実際』田研出版、978-4860890186			
参考書・参考資料等			
脇中 起余子『聴覚障害教育 これまでとこれから—コミュニケーション論争 9歳の壁・障害認識を中心に—』北大路書房、978-4762826900 特別支援学校学習指導要領等（平成29年4月公示・平成31年2月公示） https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/main/1386427.htm 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 『障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～』 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1340250_00001.htm			
学生に対する評価			
レポート評価（50%）、科目修得試験（50%）			